

少花粉スギならびに少花粉ヒノキにおける種子の生産性向上試験

【背景と目的】

東京都では、花粉発生源対策として皆伐地への花粉症対策品種の植栽を推進している。しかし、植栽に用いる苗木不足が深刻な問題となっており、都産の少花粉品種における種子の増産が求められている。本課題では、少花粉品種の種子増産を図るため、ミニチュア採種園における少花粉スギならびに少花粉ヒノキ種子の新たな種子生産技術を確立する。

【研究概要】

（１）少花粉スギ種子の発芽率の向上

① 袋かけによる少花粉スギ種子の発芽率向上の検証

採種する木全体や枝に目合い0.8mmのポリエチレン製網袋をかけると、少花粉スギ種子の発芽率は高まる。

（２）採種園に用いる少花粉スギ優良品種の選抜

① 少花粉スギ品種の着花性評価による品種選抜

少花粉スギ品種の雌花は、西多摩2号、上都賀9号、群馬4号などが着花性が良く母樹として優れている。雄花は、多くの品種で着花性が良く花粉親として優れている。

② 充実種子選別装置により計測した種子充実率と発芽率の関係

充実種子選別装置で計測した少花粉スギ及び少花粉ヒノキの種子の充実率と発芽率との間には高い相関が認められた。種子生産現場や品種選抜において本装置を用いることで省力的に種子の品質を評価できる。

（３）少花粉ヒノキ採種木の剪定手法の確立

① 少花粉ヒノキ採種木の剪定1年目の生長

強剪定しても、ジベレリンペースト処理が可能な枝が十分確保できる。

② 少花粉ヒノキ採種木の枝葉除去の効果

枝葉の除去により採種可能な枝が増えるとともに、採種枝1本あたりの採種量が増加する。